

フィリピンの楽しい催し

フィリピンでは国民の90%がキリスト教徒で、そのうち大半はカトリック系だ。彼らにとって1年のうちで最もうれしい行事がクリスマスだ。読者もご存知のように、日本で就労しているフィリピン人も必ずこの日は帰国している。新会社に移転して以降、私は15年間毎年4、5人の本社社員を引き連れ、クリスマスパーティーに参加している。

彼らにとって、次にうれしい行事は誕生会だ。当地の誕生会では、費用はすべて祝ってもらう側が支払うことになっている。そのためその習慣を知らずに初めて駐在した者は面食らっている。日系独资になってからの彼らの勤務態度は極めて明るく、忠誠心を持つ

伊藤製作所社長

伊藤 澄夫 31



エジプトのクフ王に扮する私



誕生日を祝ってくれる現地社員

て勤務している。家族的で信頼し合えることにした。同時に恒例の臨時ボーナス支給の内示を発表すると、窓ガラスが割れるのではないかと思うほどの

楽しみなのだ。日本から合流した社員が審査員になって順位を決めることになっているが、優勝した組の喜びようは表現できないほどである。彼らのチームワークの良さが職場での効果的な作業態度につながっている。

拍手で盛り上がった。

フィリピンでは13番目の給与と言われているが、クリスマスの前に1カ月分の賞与支給が国で定められているのだ。当社はさらに利益の10%を支給するようにしているので、このように盛り上がるのだ。

パーティーのメイン・イベントは職場単位で5、6組のチームを編成しダンスを披露することだ。2カ月前から業務修了後に練習している。そこの衣装は日本円で800円程度の生地を買って皆で仕立てるが、これも彼らの

1942(昭和17)年6月4日は日本海軍がミッドウェイ海戦で大敗した日だが、その日が私の誕生日だ。2003(平成15)年、単独資本になってから私のマニラ出張は年間8、9回に増えたが、6月の出張時には必ず私の誕生会を開いてくれる。

そして数年前からは6月4日に出張依頼が来るようになり、業務より私の誕生会が優先されるようになった。クリスマスならともかく、私の誕生日のダンス披露はしなくていいよ、と伝えたが、今年も踊ってくれた。